

れ、乙次郎は十月廿二日泉野に於いて死刑に處せられた。

**ナカムラタネカツ** 中村子勝 通稱兵左衛門・興左衛門。正保二年父新兵衛の遺知五百石を襲ぎ、大小將・同横目より次第に昇進して御留守居物頭に至り、元文二年百五十石を加へ、寶曆三年五月四日六十二歳を以て歿した。

**ナカムラタネヨリ** 中村子順 通稱藤左衛門。實は岡島市郎兵衛の二子で、中村半左衛門の養嗣子となり、百五十石を襲ぎ、御馬廻組に班し、會所奉行・御近習番・御馬廻使役・御先弓頭に歴任し、享保七年五月三日七十四歳を以て歿した。

**ナカムラツネヨシ** 中村常喜 越前府中に於いて前田利常に仕へた。その祿は明らかでないが、子五左衛門は五百石を受けた。子孫世々藩に仕へる。  
**ナカムラテ** 中村出 鹿島郡笠師の内の小字。

**ナカムラテンゼンオホエガキ** 中村典膳覺書 一册。一名元祿中日録。中村克正著。元祿五年十二月から八年九月まで、著者が前田綱紀の近習取次をした際、綱紀が穿鑿した種類の件を書き載せたものである。

**ナカムラナホカツ** 中村直一 通稱乙菊・百六郎・才兵衛。兄榮次郎の遺知三百石を襲ぎ、組外に列し、金谷御近習勤仕より表小將に進み、天明八年五十石を増し、寛政五年御使番より遂に馬廻頭に至り、文化十三年歿した。

**ナカムラナホマサ** 中村尚正 通稱吉郎兵衛・雅樂・五兵衛。初諱榮重。貞享四年三百石

を襲ぎ、大小將・前田吉徳御部屋附大小將番頭より昇進して御小將頭に至り、三百石を増し、享保二十年職を退き、寶曆三年九月廿六日八十三歳を以て歿した。

**ナカムラマサカツ** 中村正一 通稱八左衛門・八兵衛。寶曆十二年父左太夫の遺知二百石を襲ぎ、御馬廻組に列し、役銀奉行に任じたが、後願により免ぜられた。然るに先役中同勤鈴木半藏に私曲のあつたことが露顯し、爲に文化十年九月指扣を命ぜられ、十二月品川主殿に御預となり、十一年正月年揚屋に入り、同年六月十五日七十四歳を以て歿した。七月四日事件落着し、死刑に處すべき者であるが大赦に因つて流刑と定められた。

**ナカムラマサナリ** 中村正成 通稱總右衛門。實は備前侯池田光政の臣岡崎右近の子で、中村刑部家正に養はれたもの。寛永十三年家正の後を嗣ぎ、前田利常に仕へて二千石を受け、足輕頭・御小將頭に任じ、正保三年歿。

**ナカムラマサノリ** 中村正敬 通稱市郎左衛門。萬治三年父惣右衛門興次の配分知三百石を受け、後六百五十石に至り、その職は大小將・向番頭から昇進して、前田吉徳御部屋附・御小將頭に至り、享保元年正月朔日江戸に於いて六十一歳を以て歿した。

**ナカムラマサヒサ** 中村方久 通稱十郎兵衛。寶永七年御歩小頭として百石を領し、享保九年三十石を増し、組外に列し、預玄院附御用人となり、元文二年五十石を加へ、寛保三年同御附物頭を兼ね、寶曆三年罷め、五年十一月二日七十五歳で歿。子孫相繼いで藩に仕へる。

**ナカムラマサミツ** 中村正光 通稱太次馬。

實は杉本權兵衛の弟。文化元年中村八兵衛正一に養はれ、劍術を養父に學んで精妙を得、二人共に經武館の指南となつた。正光、十一年正月父の罪に座して一たびその職を失うたが、門人の從遊する者尙舊の如くであつたから、更めて經武館の教師となり、魁勉多年、遂に天保十四年正月本組奥力に列し、新知八十石を受け、文久三年正月四日八十七歳を以て歿した。

**ナカムラマサモト** 中村正基 通稱新平。次右衛門。元祿十二年彌八郎政知の遺知百五十石を襲ぎ、享保四年前田吉徳附大小將横目として百石を加へ、次第に昇進して九年二百石を加へ大組頭に至り、寛保元年九月廿三日十六歳で歿した。

**ナカムラマンエモン** 中村萬右衛門 ↓ ナカムラセイ 中村齊。  
**ナカムラモリトミ** 中村守福 通稱猪右衛門。明和六年父久右衛門正也の遺知百五十石を襲ぎ、天明四年九月十四日一門へ御預、五年四月廿七日知行を召放された。

**ナカムラモリモチ** 中村守望 通稱貞次郎。平次兵衛。天明二年幼少で養父治兵衛守房の遺知三の一を受け、三年本知二百五十石に復し、組外に班し、寛政三年御馬廻に轉じ、享和三年會所奉行より、次第に昇進して竹澤御殿附御側物頭に至り、前田齊廣の卒去後免ぜられ、天保六年五月廿八日六十七歳を以て自殺した。

**ナカムラヤゴザエモン** 中村彌五左衛門 九八郎の子。天正十一年前田利長に仕へて百二十石を受け、兄の遺知を併せて三百石となり、大坂再役に二ノ丸で敵首一を獲、後御歩

頭・越中代官を勤め、正保元年歿した。  
**ナカムラヤスエモン** 中村安右衛門 初名吉兵衛。源兵衛の弟でその嗣となつたもの。遺知・加増併せて三百八十石を領し、大坂再役に五月七日銃丸に中つて死んだ。

**ナカムラヤベンキチ** 中村屋辨吉 號は一東、別に鶴壽軒ともいうた。天保二年京都より來り、石川郡大野に住して居たから、世に大野の辨吉として知られてゐる。辨吉は學問に長じなかつたが、螺旋仕掛によつて自動する人物・動物等を作り、寫眞・電氣・爆薬を弄し、彫刻に秀で繪畫を好んだ。明治三年五月十九日享年七十を以て歿。

**ナカムラヨイチザエモン** 中村與市左衛門 越前府中に於いて前田利長に仕へ、百五十石を領した。子孫相繼いで藩に仕へる。  
**ナカムラヨシユキ** 中村吉之 通稱左左衛門。次郎右衛門正吉の次子。新知・加増併せて三百石を領し、大小將に班し、寛文四年公事場横目、延寶五年御横目に任じ、天和二年七月廿四日歿。子孫藩に世襲する。

**ナガモ** 長藻 鳳至郡黒島の名産として、藩から幕府に献納した。本名はナガラ藻。海雲に類して、長く太い海草である。黒藻といふも之に同じい。↓クロモ 黒藻

**ナカヤ** 中屋 石川郡横江郷に屬する部落。  
**ナカヤ** 中屋 鳳至郡浦上の内の小字。  
**ナガヤ** 長屋 河北郡小坂庄に屬する部落。  
**ナガヤガハ** 長屋川 ↓カナクサリガハ 金廣川。

**ナガヤゴロエモン** 長屋五郎右衛門 初め長五郎。七郎右衛門吉繼の子。祿加増共二千三百石に至り、元祿十一年歿した。